

史跡取掛西貝塚の活用の方向性について

船橋市教育委員会 生涯学習部文化課

1 国の史跡とは

国の史跡は、全国にたくさんある遺跡のうち、我が国の歴史を正しく理解するために欠かせない重要な遺跡で、かつ、学術的価値の高い遺跡が指定されます。取掛西貝塚は、その価値と重要性が認められ、令和3年10月に国史跡に指定されました。

2 取掛西貝塚の重要性

取掛西貝塚の重要性について、以下の3つの地域的視点から説明します。

(1) 日本列島における最古級貝塚としての重要性

取掛西貝塚と同じ約1万年前の貝塚は、全国的にみてもおよそ10か所と非常に少なく、81か所ある国史跡貝塚のうち、縄文時代早期の貝塚は、前葉から後葉まで含めても9か所です（令和4年11月現在）。この時期は、グローバルな気候温暖化や海進といった大きな環境変化に対応して、定住的な新しい生活様式が確立しました。取掛西貝塚はまさにそういった日本列島における最初期の貝塚形成期の生活のあり様がわかる遺跡です。また、取掛西貝塚は、貝塚だけでなく、多数の竪穴住居跡が発見されており、ムラと貝塚が残された早期の貝塚として稀有な存在です。

さらに約6000年前の気候の最温暖期のムラと貝塚も残されており、環境の変動とそれに適応した日本列島の人類史を解明することのできる重要な遺跡です。

なお、取掛西貝塚には稲作農耕社会の弥生時代中期の集落も残されており、狩猟採集社会から稲作農耕社会までの永い歴史を考えることができる遺跡であることも重要です。

(2) 東京湾東岸部（千葉県）での重要性

東京湾東岸部は、全国一の貝塚密集地で、特別史跡加曾利貝塚など、日本でも有名な大形貝塚が多く形成されています。これらの貝塚は縄文時代中期から後期（約5000年～3500年前）のもので、取掛西貝塚はその地域の中で、貝塚形成の最初期から最温暖期までの様子を今日に残す貝塚であるという点でも重要です。船橋市には、早期前葉の取掛西貝塚と早期後葉で東京湾東岸部を代表する飛ノ台貝塚もあり、さらに縄文中・後期の大型貝塚である海老ヶ作貝塚・古作貝塚や宮本台貝塚・金堀台貝塚など縄文時代の各時期の貝塚が存在し、古代でも印内台遺跡群などに貝塚が形成され、その後、江戸時代まで貝塚がつくられます。船橋は、東京湾東岸部の中でも、貝塚から人々のくらしを通時的に学ぶことができる唯一の地域です。

(3) 船橋市での重要性

船橋市には、約1万年前の縄文時代早期以降江戸時代まで、各時期の貝塚や集落遺跡が多数存在し、江戸時代から現代にかけても、東京湾の魚介類を利用した産業が栄えています。また、平安時代後期には伊勢神宮の荘園である夏見（船橋）御厨が成立し、戦国時代には海老川河口付近に湊があって市が立つなど、水陸交通の要地として都市の原型が形成されました。江戸時代には

<作成>令和5年2月13日

<最終修正>令和5年3月7日

宿場町（継立場）として栄え、近現代には東京近郊の立地を生かして海水浴場など行楽地としてにぎわい、戦後は海辺の埋立が進んで工場や商業施設ができました。取掛西貝塚は、このように海と関わって人が集まり、発展してきた都市船橋の原点としての価値があります。また、船橋が持つ日本列島の人類史と海洋適応の実態を今日に伝えるという地域の特徴の観点から見ても、欠かせない重要な遺跡です。

3 活用の方向性

これらの3つの視点から「海とともに発展してきた「ふるさとふなばし」の歴史的起点である取掛西貝塚の価値と特色を踏まえて、地域の財産として市民とともに永く伝え、守り、活かす」活用を市でははかっていると考えています。

また、活用をはかるにあたっては、この史跡取掛西貝塚を核として、縄文貝塚や遺跡、さらに広げて、古代から現代までの貝塚や遺跡だけでなく、いろいろな文化財や歴史史料、文化といった幅広い範囲のものを合わせた活用を目指していきたいと考えています。

なお、このような計画は、個別計画である史跡取掛西貝塚活用計画のあとに作成予定の、船橋市文化財保存活用地域計画にも反映させていきたいと考えています。